第５号

恵　水　通　信

平成３１年
３月５日

『恵水通信』は，県オリジナル品種「恵水」の旬の情報をお届けします。

今回は，大玉高品質果実生産のポイントとなる摘果技術，市場出荷３年目となった平成３０年産の生産・出荷状況，今後の生産量予測等についてお伝えします。

『恵水通信』バックナンバーは，県農業総合センターホームページでご覧いただけます。→

●●　大玉生産で「恵水」の評価を高めていきましょう！　●●

「恵水」は**大玉になるほど糖度が安定して高くなります**。逆に，１４玉（３Ｌサイズ）以下の果実では，糖度の低い果実の発生割合が高まります。

「恵水」の評価を高め，もうかる品種として育てていくためにも，消費者や実需者においしい果実を届ける必要があります。大玉高品質果実生産を目指し，基本技術を徹底しましょう。

大玉生産のポイント　「摘果」

基本技術ですが，
やはり重要です！

「恵水」は基本的に大玉になる品種ですが，適期に適度な摘果を行わないと，本来の品種特性を発揮することができません。摘果が遅れたり，着果量が多すぎると，「恵水」でも小玉果の発生が多くなります。

さらに，「恵水」は「幸水」のようにあまり急いで摘果すると，裂果を助長したり，果形が乱れるおそれがあります。**「急ぎすぎず，でも遅れず，果形をよく見て摘果」**を合言葉に摘果しましょう。

下の表を再度確認し，適切な摘果を徹底しましょう。

表１　摘果について

摘果・着果	摘果時期	摘果方法
予備摘果	満開後３０～４０日	１果そう１果
仕上げ摘果	満開後６０日以内	３果そう１果
最終目標着果	満開後６０日頃	側枝１ｍ当たり６果

※仕上げ摘果の時期・方法については，満開後６０日以内の範囲内で，じっくり果形を確認しながら実施した方が，あまり早い時期に行うよりも最終的な果形の揃いが向上するという現地からの声もあります。

※ジョイント仕立て栽培等，側枝密度が高い整枝剪定においては，最終的な着果の目安である，「側枝１ｍ当たり６果」にすると，単位面積当たりの着果数が多くなり，着果過多となる場合がありますのでご注意ください。これは，若木の段階でも同様です。

「恵水」苗木の導入状況と今後の生産量予想

表２　県内「恵水」苗木の導入本数（本）

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
当年	746	1,176	597	1,109	1,978	1,443
累積	746	1,922	2,519	3,628	5,606	7,049

導入された苗木の平均的な生育を前提とした計算上の予測です。
丁寧な定植，その後の適正管理を徹底し，県統一規格による販売を推進しましょう。

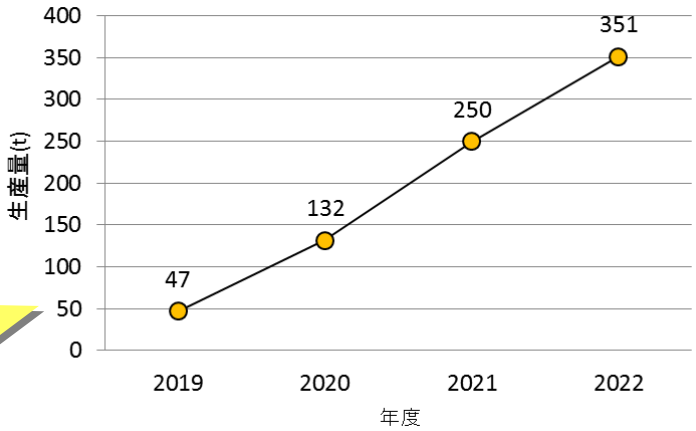

図　苗木導入本数から予想される生産量

新品種育成普及プロジェクトチーム活動の紹介

主産地の地域農業改良普及センター，農業総合センター（専門技術指導員室，生物工学研究所，園芸研究所）等がチームを組み，技術的課題を中心に各種活動を行っています。

生育状況現地確認・収穫適期検討

個人出荷者等への巡回指導

果肉障害発生調査　等

平成３０年産「恵水」の市場出荷（県統一販売）状況

平成３０年産「恵水」は，ＪＡグループ茨城なし流通部会により，３年目の市場出荷が行われました（下表）。

表３　県統一販売による市場出荷実績

出荷年度	2016（H28）	2017（H29）	2018（H30）
出荷量	１．６ｔ	４．６ｔ	１２．０ｔ

※ＪＡグループ茨城なし流通部会販売実績（H30 輸出分を含む）より

美味しいと喜ばれる「恵水」，儲かる「恵水」に育てていきましょう。

お願い

「恵水」の苗木を導入された皆様には，今後，県全体の生産状況把握等のため，各関係機関から，若木の生育状況や出荷数量見込等の問い合わせをさせていただく場合もあるかと思います。その際には，是非ご理解・ご協力をいただきますよう，お願いいたします。

発行　茨城県梨組合連合会　ＪＡグループ茨城
茨城県農業総合センター（新品種育成普及プロジェクトチーム）